

新著紹介

○數理地理學

北田宏藏著 古今書院發行 昭和四年五月十四日 定價三圓二十錢

菊版三七六頁 問題の答四頁、索引十二頁、本書篇を分つこと六、緒篇には坐標、球面三角法をのべ、第二篇には觀察地中心系統と題して、地球、地平、經緯度、時、曆をしるし、第三篇地球中心系統と題して地球の形、大さ、經緯度の決定時刻、日付、測量、更正緯度をのべ、第四篇太陽中心系統として自轉公轉、軌道、月の運行年及月をのべ、第五篇銀河系統として恒星、太陽、銀河系の構造、第六篇に非ユークリッド空間的考察がのべてある。日本文でこれ位數理地理の問題を簡単に解説した本はまだ嘗て見なかつたものである。しかし簡單であるだけに、初學の人には理會されないうであらうと思はる、記事が少からず存する、例令はベルシヤ曆、インド曆さては日本支那曆、いづれも説明は不十分である。球半徑決定の章に於ても支那唐代南宮詒の觀測は、アラビヤの觀測よりも早い丈けに記録される價値があり、我國でも伊能忠敬の觀測位は記述されてよからうと考へるがどうであらうか。遊星の運動のみかけの説明に關しても、外惑星と内惑星とでちがう。その一方の圖解のみで説明した丈けでは、古人が之を

遊星と呼んだ理由が、明にならぬと思はれる。まづかうした一二は説明が十分でないといふ愚考をのべた所以である。天文地理の問題は手取り早く理解しにくいものであるから、本書の記述の如き簡潔第一主義の行き方では實際初學の人にはわかる所はわかるが、少しく微細の點になると陳紛漢であると思ふ。著者は勿論さうした人を相手に編纂しられたのではなからうとは考へるけれども、現に高等學校程度の文科の學生などにこれを讀まして見て興味を持ち得ないと思ふ。予は本書の如き眞面目な科學的の著書を歡迎すると同時に、かうした智識は、どうしても、もつと碎いて大衆的に呼びかけるやうにしていただきたい、この點は健筆の譽高き著者に對する至囑である。妄評多罪。(藤川)

新著即報

○臺灣時報 第一二二號 三月

臺灣の海運(深川繁治)

東洋に於ける石炭の需給關係と臺灣炭田の價値(城崎彦五郎)

○史蹟名勝天然紀念物 第四集第四號 四月

天城裾野白雲郷高原を巡る奇跡に就て(湯河俊次)

△改訂最新滿蒙地圖 南滿洲鐵道株式會社庶務部調査課編

昭和三年十二月 大連中日文化協會發賣 折本一圓

軸製三圓

◎雑誌 第一〇号 第四號 四月

支那の地質學の進歩 (田中均著)

◎Zeitschrift für Geomorphologie. Bd. IV, Hf. 2.

Feb. 1929.

Beiträge zur Paläogeomologie (古代湖川學)

(Wilhelm Deek)

◎Zeitschrift für praktische Geologie. 37. Jahrg. Hf. 2.

Feb. 1929.

Übersicht über die Entstehung technisch wichtiger

Mineralagerstätten. (P. Niggli)

◎Science. Vol. LXIX. No. 1733. March 1, 1929.

Pleistocene Glaciations of the Northern Hemisphere

(Frank Leverett)

◎The Mining Magazine. Vol. XL. No. 2. Feb. 1929.

Greece: its Geology and Mineral Resources. (2)

(D. A. Wray)

◎Gerlands Beiträge zur Geophysik. Bd. XXI, Hf. 2/3.

1929.

Possible Origin of Oceans and Continents. (W. Bowie)

◎The Geological Magazine. Vol. LXVI. No. 7/6. Feb. 1929.

1929.

The Quartz-basalt of Taradake, Japan. (T. Ogura)

◎American Journal of Science. 5th Ser. Vol. XVII.

No. 97. March, 1929.

The natural Etchings of Japanese Pyrite Crystals.

(Shimnatsu Ichikawa)

Pre-Cambrian Algal Structures from the Northwest

Territories, Canada, (R. L. Rutherford)

◎The Pan-American Geologist. Vol. LI, No. 1. Feb. 1929.

1929.

Standardization of Geologic Time-Units. (H. P.

Woodward)

Ordovician Brachiopod Habit. (F. W. Sardeson)

◎地質學雜誌 第三十六卷 第四二六號 三月

機械的組成成分並に礦物組成成分より見たる所謂關東ローヤ

(中尾壽藏)

大隅西岸の灰砂層中に於ける花崗岩片の由來(山口鎌次)

◎筑豊石炭鑛業組合月報 第二十五卷 第二九七號 三月

筑豊石炭數種の火渣や火持に關する實驗(土治寅次郎)

◎The two Solar Families. By T. C. Chamberlin.

1929. The University of Chicago Press, Chicago. 5頁50

(丸藤)

◎The Evolution of the Igneous Rocks. By N. L. Bowen,

1928. Princeton University Press, Princeton. 11頁50

(丸藤)

◎調査時報 第九卷 第三號 三月

滿洲鐵道の發達と人口に就くの一考察(野久)

◎朝鮮鐵床調査報告 第五卷 咸鏡南道ノ一 朝鮮總督府地

質調査所 昭和四年三月 朝鮮鐵業會發賣 定價五圓

成鏡南道南部定平以南二府六郡鐵床調査報文川崎繁太郎

成鏡南道北部甲山三水長津一各郡重新興豐山三郡一部鐵床調査報文

○地震 第一卷 第四號 四月

地震に關係して重力は變化するか(石本巳四雄)

關東地方の地震活動に對する一見解(那須信治)

地震に對して武裝されたる町村と武裝なき町村 (2) (今村明恒)

○東洋學藝雜誌 第四五卷 第四號 四月

火成岩の話(四)(坪井誠太郎)

動物の類族の滅亡及び其の過程(三)(小泉丹)

鑛業に於ける岩石學の應用(市來政兼)

○朝鮮の小作慣習 善生永助調査 調査資料 第二十六輯 朝鮮總督府 三月

△信濃中部地圖 縮尺十二萬分一 本間不二男 小山進編 信濃教育會小縣上田會發行 四月

○地質現象之新解釋 小川琢治著 古今書院發行 四月

○鑛物學地質學講義 河村信一著 古今書院發行 四月 定價七圓五〇錢

○世界地理風俗大系 第十卷 イギリス 執筆者 淺野一男 池田俊彦、石橋五郎、今井登志喜、江尻正一、遠藤金英、緒方清、澤村寅次郎、田中阿歌麿、永井亨、湊愛讓、山口茂、蝦山政道、渡邊萬次郎、新光社發行 四月

豫約價二圓八〇錢

○Journal of the Faculty of Science, Imperial University of Tokyo, Lec. II, Vol. II, Part 8.

March, 1929. 丸善賣捌 定價四〇錢

Nogeyte Shells from one Provinces of Chūgū:n. (M. Yokoyama)

○The Science Reports of the Tohoku Imperial University, Sendai, Second Series (Geology), Vol. XIII, No. 1, March, 1929. 1 Yen 50 (丸善)

On Loxodontia (Palaeoloxodon) mamudica in Japan. (H. Matsumoto)

On Loxodontia (Palaeoloxodon) Tokunagii, with Remarks on the Descent of Loxodontine Elephants. (H. Matsumoto)

On Parastegodon Matsumoto and its Bearing on the Descent of Earlier Elephants. (H. Matsumoto)

○地學雜誌 第四一年 第四八二號 四月

淺間山火口底の昇降と爆發との關係及二三の事項に就て (八木貞助)

南北樺太白堊紀層の對比(一)(清水三郎)

出雲笹子に於ける輝綠岩中のダイオライト・アブライト脈に就きて(二)(山口録次)

十和田湖(三)(木下龜城)

世界の白金大觀(三川逸郎)

河南省内地質巡見記(二)(渡邊久吉)

Proceedings of the Imperial Academy, Tokyo, Vol.

V. No. 3, 1929.

Mammalian Fossils found in Limestone Caves in Korea. (S. Tokunaga)

A. Further Investigation of Paleozoic Coal-bearing Strata in Japan. (S. Tokunaga)

On the Late Tertiary Orogenic Movement in Shinano Province, Japan. (F. Honima)

○史蹟名勝天然紀念物調査書摘要 山口縣 昭和四年三月

長門峽、石柱溪、青海島、倭島、須佐灣、秋吉臺ノ地獄臺、秋芳洞、景清洞、大正洞、中尾洞(岩根又重)

○本邦最廣のかるすと地方秋吉臺(再版) 山口縣 昭和四年五月(岩根又重調査)

報 雜

○天池淵の瀑布 (圖版第一版説明)

西歸浦を離る西北數町に在る懸瀑にして、高さ七十二尺幅三十尺に達し實に壯觀を極む。火山地方の特有の景趣であつて、幼年期の地貌を呈し熔岩流の末端に瀑布を懸けてあるものである。遊人暈客の杖を引く者多く瀧壺は水清くして深淵をなし鮎特種異大なる鱒を産す。

雜 報

○アビシニア國 Tana 湖 埃及ナイルの一支青ナイルの發源地、アビシニア高原の中に Tana 湖がある。この

湖水は一名 Demba 湖とも稱せられ北緯十二度東經三十七度二十五分の地に位し、南北四十五哩東西二十五哩、海拔六千呎の高地にあつて、その南東部から青ナイルが出る。ナイルの年々の洪水は、アビシニアの雨季によるのであるから、この湖水の水量を堰堤によつて調節することは、實にナイルの生命の本源の問題である。ことに蘇丹開發に従事する英國はその地の棉花栽培の給水源として、夙にこの湖水に着目して、一九〇二年五月アビシニア國王メネリク二世と英國公使ハーリングトンとの間に密約を結んだ、曰く

メネリク二世はナイル河に對する給水を阻止するが如き工事を青ナイル河、タナ湖若はソバトに自ら施し若は第三者をして施さしむること無き旨を英國政府に約す。但し英國政府若くは蘇丹政府との協議により之を爲す場合はこの限に非ず。

とかやうな約束は、其後諸外國の新聞雜誌で攻撃されたものであつたが、同時に英國も過去二十五年間屢、水堰の設置を計畫してアビシニア政府に迫まつたけれども、今日に至る迄目的を達するに至らない。

しかし近時になつて、埃及の獨立の希望が、益々旺盛となり、又自國棉業原料供給地としての蘇丹の開墾地が擴張せられるに應じ、給水の必要は大に痛切となり、ナイル河水増減